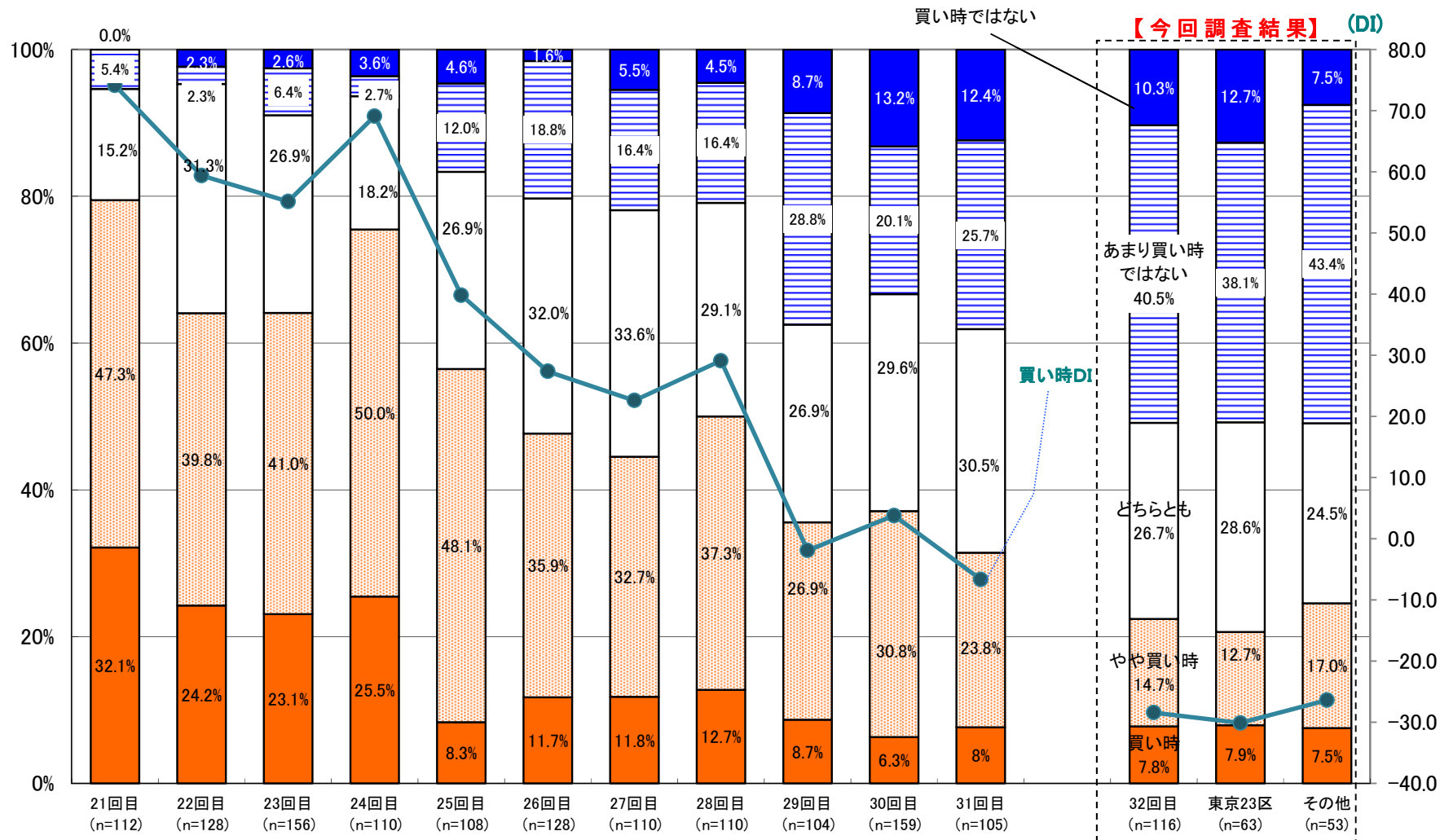


# 買い時だと思うか

「買い時(買い時+やや買い時)」の回答率を「買い時ではない(買い時ではない+あまり買い時ではない)」の回答率が上回り、買い時DI(※1)は全体で-28.4ポイントとマイナス幅が拡大。

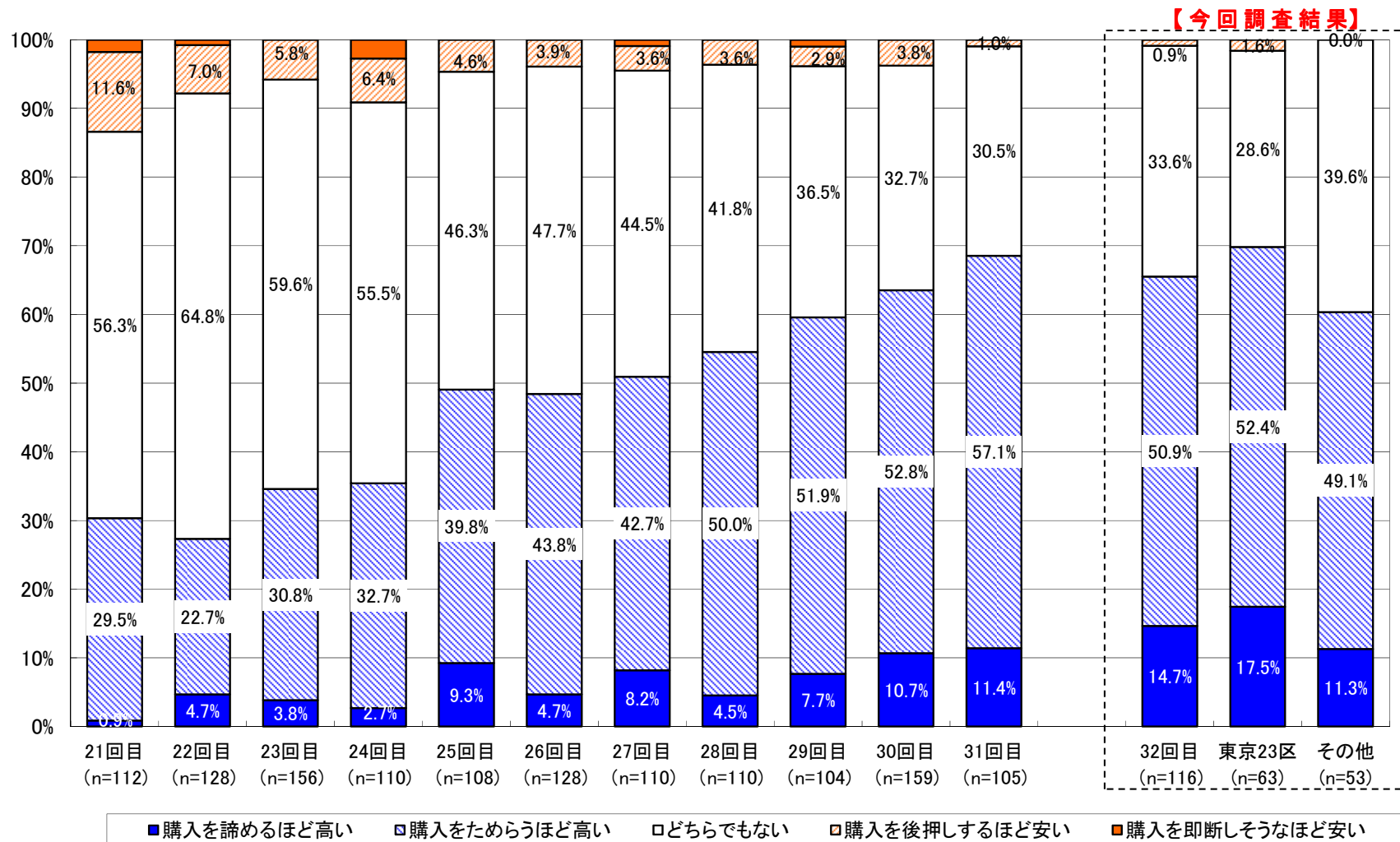
図1.「買い時かどうか」



※1 買い時DI: 「買い時だと思う」の数値から「買い時だと思わない」の数値を差し引いて算出した値。

現在の物件価格に対し「高い(購入を諦めるほど+ためらうほど)」との回答は全体で65.6%と、現在の価格を高いと感じているのは前回と同じく7割弱で推移している。

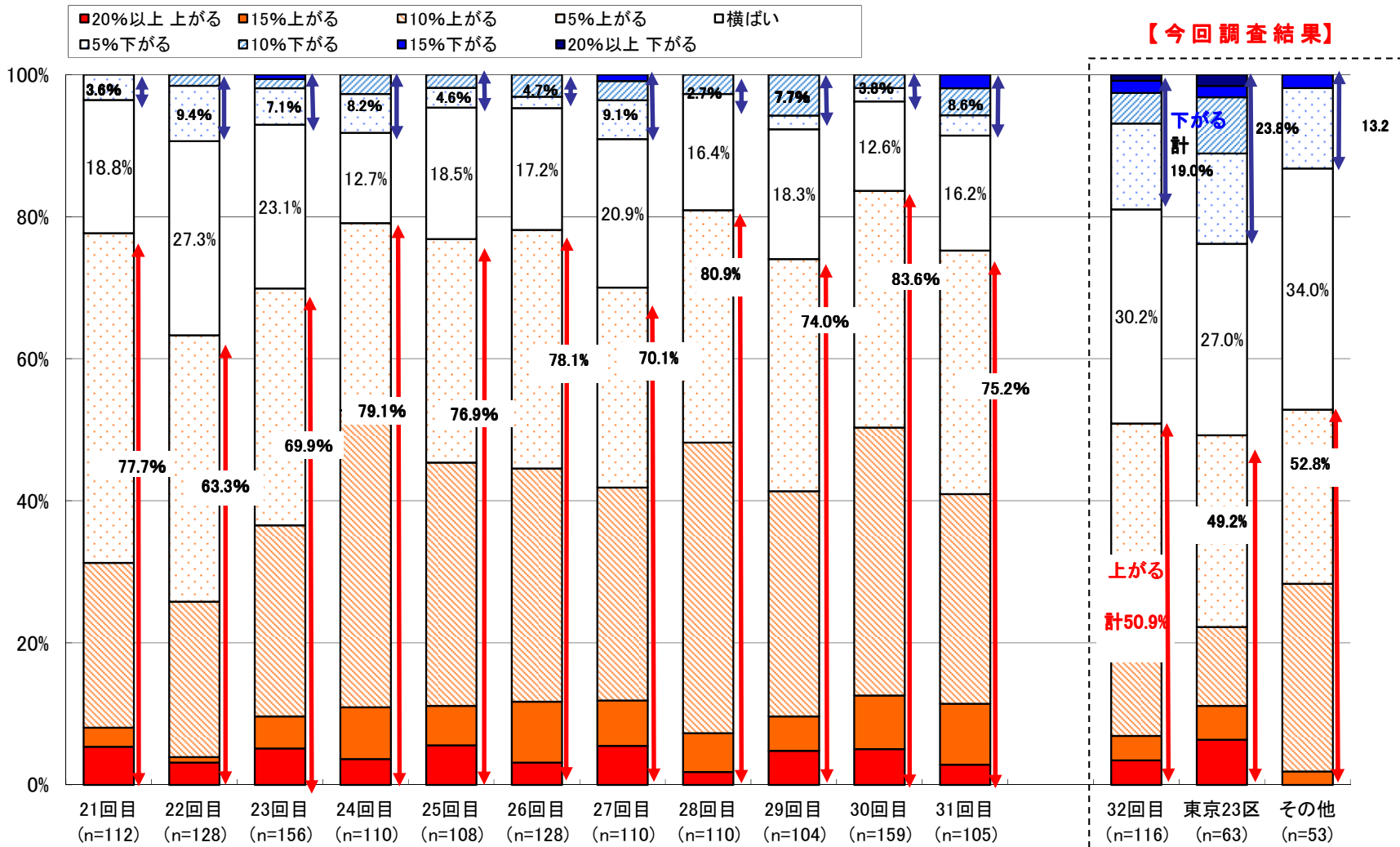
図2.「現在の物件の購入価格(分譲価格・金利・税制含む)についてどのように感じているか」



# 1年後の価格変化

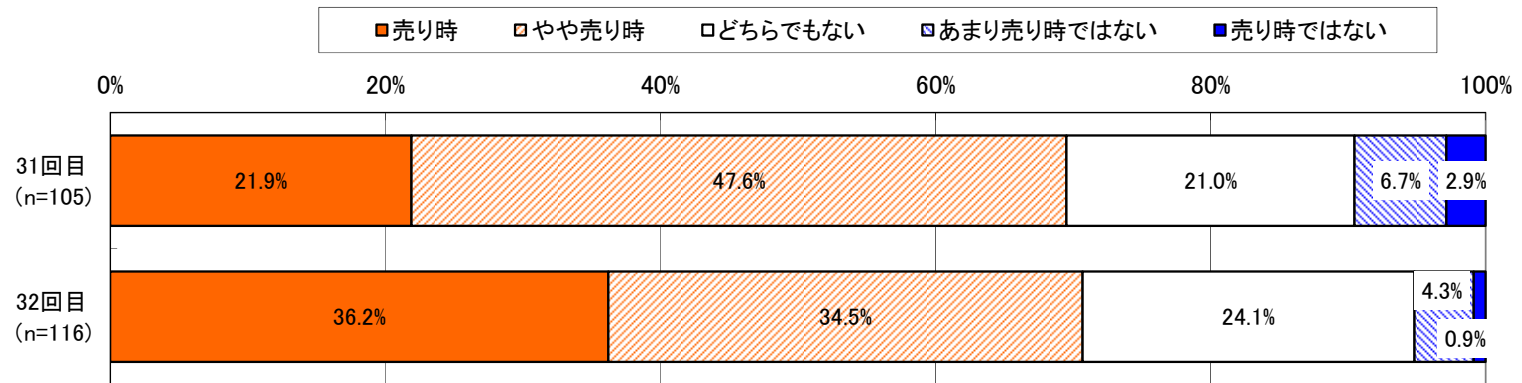
1年後のマンション価格上昇を予想したのは全体の全体の50.9%。前回(2015年10月)調査時より「上がる」との考える人が急激に減少した。

図3.「1年後の価格変化」



「売り時(売り時+やや売り時)」と感じている人の割合は前回も今回も同じく7割だが、強く売り時と考えているTOPBOXの割合は21.9%⇒36.2%と1割以上増加した。

図4.「売り時かどうか」



杭問題の発覚前後で基礎や構造の確認意向がどう変化したかを確認したところ、発覚前は50.9%が確認していたと回答し、発覚後は77.6%が確認意向があると回答した。発覚後に基礎や構造への確認意向は26.7ポイント増加した。

図5.「基礎や構造に対する意識」

